



特別座談会

Special Roundtable Discussion



撮影協力: MBギャラリーチャタン

北谷町の戦後復興や社会発展は、先達の苦難と奮闘の歴史を経て、私たちは現在の平和で豊かな暮らしを享受しております。次の世代へ平和で誇りの持てる“ちゃたん”を継承していくため、これまでの町行政の歩みを顧みるとともに、まちづくりを推進してきた歴代町長並びに助役及び副町長に当時のお話を伺いました。

進行役: 伊集 竜太郎 (沖縄タイムス社 中部報道部長) 写真右端

Our town's post-war reconstruction and social development and our present day peace and prosperous life we enjoy, would not have been possible without the historical hardships and struggles of our predecessors. In order to pass on the legacy of our town, we looked back on the history of our town administration and interviewed past mayors, deputy mayors, and advisors who took on significant roles in our town's development.

Facilitator: Ryutaro Ishu (Okinawa Times, Chubu News Department) Far right end of group photograph



辺土名 朝一元町長

北谷町長を平成5年12月から平成17年11月まで、3期12年務め上げる。主な功績に、美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ整備事業などがある。座談会開催時、85歳。



野国 昌春前町長

北谷町長を平成17年12月から令和3年11月まで、4期16年務め上げる。主な功績に、中学生までの医療費無償化や、フィッシャリーナ整備事業などがある。座談会開催時、77歳。

継承からさらなる発展！ 戦後100年を見据え平和で誇りの持てる“ちゃたん”

渡久地町長 挨拶

本土復帰当時、北谷村が策定した「北谷村振興計画」には、基地返還と公有水面埋め立てにより、基地依存経済から脱却し、都市住宅、観光と商業を柱として都市計画事業を推進することが記されており、まさに現在の北谷町の姿が描かれています。

基地経済に頼らない、基地依存経済から脱却するというかたちで進めてきたまちづくりについて、次世代へ伝えていきたいと思っております。

「顔のない町」と「北谷村振興計画」

辺土名元町長(以下辺土名)北谷村振興計画が出た当時、北谷は「顔のない町」だとか、「北谷はどこが入口かわからない」といった声を何遍も聞ききました。それで、まちづくりの方向性としては基地の開放以外には無いと考え、昭和47年の本土復帰に際し、他道府県と同じ立場でまちづくりを進める必要があり、視察等を経て、本土の行政がやっている総合計画を北谷村も作るということで、作成に至ったわけです。そして作成した振興計画を基に、国会や政府に北谷の状況を説明し、要請をしたんです。

そういうこともあってまちづくりは、行政も軍用地の地主の皆さんも、振興計画で計画しているように、基地が解放されてまちを作っていくんだと。そういう方向で一致してハンビーやメイモスカラー地域が開放されました。

町づくりにおける私の考えとしては、本島中部に位置する事を活かして『結節の役目を果たすまち』はつくれんかと。埋立て地を処分するのにも方向性を示さんといかんということで、『美浜タウンリゾート・アメリカンビレ

ジ』という名称もつけて、宿泊やショッピングを入れた方向性で企業募集をしました。

ただ、あの時、バブル経済がはじけた時期で、相手にしてくれる企業も、銀行も、多くなかったんで、大変な時代でした。

また、車両1,500台が駐車できる公共駐車場を『誰もが使える駐車場』として整備することを説明し、土地の売却に当たりました。沖縄のどこにもない7つのスクリーンがある映画館ができる、車がばあっと来ましたから。この駐車場が大きな役割を果たしたんですね。

当時、金融公庫が「この一帯の融資に対する申し込みが多いんだが、どういう状況か？」と金融公庫の理事長、役職員が視察に来たこともありました。土地が動き出して、町全体が賑やかになると、事業が上手くいって来たなと感じました。

美浜の土地処分が動かなければ北谷は行財政が破綻しますから。一番心労したのは比嘉元助役と神山元町長のお二人ですね。

「基地のまち」と「世界水準の都市」

野国前町長(以下野国)私は、元々電力関連に勤めておりましたので、町の行政、職員についてまったく知らない状況での町長就任となりました。

今でも記憶しているのは、就任から1か月も経っていない1月に、基地内でタクシ強盗事件が発生し、またその10日後には、嘉手納基地から離陸したF15戦闘機がうるま市沖に墜落するという事態になり、当時の那覇防衛局に就任挨拶に行く前に、2回抗議をするという状況がありました。就任早々、まさに基地のまちの町長だなと感じました。

また、キャンプ桑江北側の跡地利用についても、土壌汚染が原因となって、平成15年の返還から全面土地利用まで15年以上かかっ

ているわけです。

ほんとに基地に翻弄されるような町だなと、就任当時から思いました。

軍転協(沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会)などで東京に要請に行く際には、知事が全体的なことを言い、私が返還跡地の問題について説明をしておりました

基地返還後は「世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾート地」の形成に向け、西海岸の特性を活かしたまちづくりを進め、アメリカンビレッジ地区には、当初、国民年金健康センター(保養施設)がありましたが、民間企業が30億近くで再開発し、観光地として知られているデポ・アイランドが出来上がりました。

そしてフィッシャリーナ地区は、リーマンショックの影響で土地処分が難航し、一筋縄ではいかないような状況でした。地区内には、民間資金を活用して海業振興センター「うみんちゅワーフ」を整備しております。

「本土復帰」と「アメリカンビレッジ」

比嘉元助役(以下比嘉)昭和47年に本土復帰が実現しましたが、沖縄の経済、社会体制は軍事基地を主体とした特殊なものでした。



北谷村振興計画における土地利用構想図



比嘉 吉光元副町長

北谷町助役(現副町長)を平成6年2月から平成14年1月まで8年務め上げる。辺土名町政を支える。座談会開催時、84歳。



神山 正勝前副町長

北谷町副町長を平成22年2月から令和4年2月まで12年務め上げる。野国町政を支える。座談会開催時、72歳



渡久地 政志現町長

北谷町議会議員を5期歴任し、令和3年12月から北谷町長に就任。現在1期目。座談会開催時、43歳



仲松 明現副町長

北谷町総務部企画財政課長などを歴任し、令和4年4月から北谷町副町長に就任。座談会開催時、56歳



そのような中で、沖縄県においては沖縄振興計画が策定されたことから、本村としても独自の現状を分析し、比嘉村長時代に「第一次北谷村振興計画」を策定しました。本村の現状は、総面積の68%が軍用地に接収され、第三次産業が86%を占め、その大半が軍雇用者であることから、基地経済に依存した経済形態となっていました。また、自主経済の転換として、労働集約的な企業誘致を図るための産業振興用地を確保するために、西海岸一帯の公有水面埋立事業の開発は、大変重要として位置づけられていました。そのため、村としては軍用地の返還運動を進めるため、村議会、地主会が一体となって「軍用地解放促進期会」を結成し、振興計画書を携えて国の関係機関に幾たびとなく要請行動を行いました。

昭和55年の村から町政へ移行の県事業として第一次北谷村振興計画で示された桑江地先に運動公園の整備用地、リゾート産業用地、住宅用地、桑江中の運動場用地、庁舎建設用地及び保育用地の確保のため、公有水面埋立事業が昭和61年に起工されました。当初は埋立地の一部をリゾート用地として県に埋立申請をしたが、本島北部のリゾート地で利用は足りているとして、昭和60年に住宅用地として申請しました。認可後、基地の返還で住宅用地が確保できたとして、平成3年1月にリゾート用地に用途変更を行っています。

当初はリゾート用地を開発業者に66億9千万円で一括処分を計画し、同企業は総事業費570億円のテーマパークを美浜リゾート用地に立地させる仮契約を締結しました。しかし、議会による審査の末、「バブルが崩壊後の厳しい状況では一企業が一括して事業を実行することは厳しい」との理由で同議案は否決されました。また、埋立事業費の返済については、用地の処分金で返済する計画でしたが、1日当りの借入利息が100万円以上となり、財政破綻を防ぐため、早期の企業誘致による用地処分が必要でした。

平成6年に企業誘致室を新設して、コンサルタント企業と共に、本格的な企業誘致活動に取り組みました。

また、企業誘致に向け、「美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ構想」を策定し、その中で分割処分を打ち出し、全国的な新聞広告

など、あらゆる手法で誘致活動を行いました。この構想は、アメリカをテーマにしたリゾート施設が全国に1か所もないことから、このコンセプトのもと、宿泊機能をはじめ商業機能及びレクリエーション機能をもつ観光リゾート地を形成する考えでした。

しかしながら、企業誘致中には土地売買契約保証金の問題で住民監査や裁判等多くの問題がありました。また、住宅用地と庁舎建設用地としていた13,700坪の広大な用地は、1,500台を有する大型駐車場として整備することによって企業誘致が順調に進み、沖縄県町村土地開発からの借入金も完納し、平成16年11月に竣工式典が施行されました。

「大きなビジョン」と「現場の一步」

神山元副町長(以下神山) 私は、副町長に任命される前は役場の職員として働いており、副町長の期間も合わせると40年勤めております。

副町長に就任したときに、職員時代に携わってこなかった総務・財政・住民福祉関係、特に法令関係はなかなか難しく、課長、職員もその都度呼んでいるいる教えてもらいながら進めていきました。

副町長の役割は、町長の施政方針をどう具現化していくか、ということです。町長が大きなビジョンを示し、そのロードマップを職員と共有しながら進めていく。そのために必要なのはやはり職員とのコミュニケーション、そ



して認識の共有だということを感じました。そして、常に内向きにならないで、前向きに事業を進めていくんだという職員の誇りをどう引き出していくかということ、その辺りを非常に工夫しました。

北谷町のまちづくりという点で、下水道の問題もかなり苦労したようで、県内町村においては、北谷町が一番最初に公共下水道を供用開始したと聞いています。

また、こういった町づくりの中で埋立事業というのはやはりたいへん厳しい事業でした。埋立整備したこの辺りは本当に野っ原で何もなく、そこに企業を誘致しようとしておりました。そのきっかけとして、役場の新庁舎を整備し、道路の整備も町が行うという埋立事業の計画を首長が示して、企業誘致を行いました。

フィッシャリーナ地区についてですが、私は正直、「アメリカンビレッジに続きまた埋立して企業誘致するのか」と、あまり乗り気ではなかったんです。でもこちらの場合にはNTT-A型という無利子の融資を活用して事業を進めていきました。しかしリーマンショックの問題がありここでも苦労いたしました。

そして、キャンプ桑江返還跡地において区画整理事業が進展している真っ最中に、国道拡幅事業の話が南部国道事務所からあり、再度地主の皆さんに説明をして、20mセットバックした計画変更をもって区画整理をしたということもありました。これも大変なことでありました。

また、キャンプ桑江につきましても、この地区は国道よりも段差があって2mぐらい低く、水捌けが悪いために水浸しになるわけです。大雨が降ると冠水して役場に行けないんです。対策について色々な案が出ましたが、結局、防衛局予算をもって国道を横断した排水施設整備を北谷町が南部国道事務所に工事を委託し、解決しました。

野国町長は、それと並行しながらソフト部門にも相当力を入れておりました。子育て支援、高齢者福祉、子どもの医療問題、そして子どもの貧困問題。たぶんこれは今現在沖縄ではトップクラスの行政サービスじゃないかと思っています。

また、子どもたちの頑張ろうという気持ちを応援するために、子ども達が一生懸命頑張って、栄冠を勝ち取って、さあ県外派遣となったときの費用助成についても、当初年1回限

りだったものを2回に増やすなど、力を入れておりました。

「米軍基地の解放」と「跡地利用」

仲松副町長(以下仲松) 地主会と議会と町が一緒になって要請していくというのは、どういったかたちでみんなに伝えていったのでしょうか。

辺土名 やはり、元気のあるまちを作るには米軍基地の解放以外にないとして、議会でも要請決議をして、村、議会、地主と三者で東京行動をやっています。軍用地が動き出し、土地が町民の手に入り、まちが次第に賑やかになる。こういう喜びが町民にはあったんじゃないかと思います。

大変な事業ではあったんですが、町民の方向が一つに進むと、どんな事業でもこなしていけるんじゃないか、と感じました。行政としてもそれに応える基礎づくりをやっていたので、いい雰囲気の中で行政運営だったのだと思います。

野国 2006年に在日米軍再編の計画があり、嘉手納以南の米軍基地が返還されるとのこと、突然、総合事務局が国道拡幅の話を持ってきました。その時にはすでに桑江伊平土地区画整理事業が着々と進んでいきましたが、今さら国道拡幅となるとキャンプ桑江返還跡地の区画整理のやり直しに1年半程かかってしまうと。しかし、これはやるべきだと判断し、地主には再説明をしながら対応しました。副町長以下の皆さん方の頑張りがあったと思います。

また、この桑江伊平土地区画整理事業も、返還前に地中に埋められたごみによって、全面の供用開始までに15年以上もかかりました。

「北谷町の発展」と「軌跡」

比嘉 もう一つ、北谷町の注目する点ですが、2022年12月1日の新聞記事にて、2021年の県内市町村の財政状況が掲載され、財政力指数の比較により北谷町が県内町村の中で一番財政力があるとなっていました。以前までは町は3割自治といわれていましたが、県内町村平均が0.33、市町村平均で0.35、北谷町が0.82。この0.82というのは大変な数字で、1.00になると地方交付税が不



交付になる。それぐらい財政力があるということです。

財政力指数とは別に、財政の弾力性をみる「経常収支比率」というものもありますが、これは数値が少なくなるほど財政力があります。これを見ると、町村平均で78.7%、市町村平均で84.5%、北谷は74%。北谷は弾力性もあり、大変良い状況になっているなど見ています。

渡久地町長(以下渡久地) まさにその通りで、北谷はすごく発展もしていて、なおかつ財政力も高い。歴代の皆さんが作り上げてきたのを上手く活かしてやってきているなど。私も引き継いで、上手く基金とも組み合わせながらやっていこうと考えています。

比嘉 ソフト面の事業に力を入れてほしいと思います。

渡久地 まさに、給食費無償化が令和5年度から始まる予定となっています。おそらくすぐできると思込んでいる方もいると思います。でも、これまでの発展は当たり前じゃないんだ、歴代の皆さんの苦労があるんだというのを職員に伝えながらやっているところでです。

今までやってきたこと、今やっていることはソフト面でもハード面でもトップクラスだと思っています。まずは周知・広報を徹底することによって、北谷は変わったと思ってもらえると。私もまだまだこれからですが、現時点ですごく評価の声をいただいたりしています。職員もまたさらに自信を持ってきていると感じています。

やはり、ここまでの発展を遂げた組織力の高さは「すごいな」と思っていて、そしてそれを職員、さらに町民に伝えていく。就任から1年、ここに重視して取り組んでいます。そしてそれを確立することによって、町民と共にこれからの50年の発展に向かっていけるのではないかと考えています。

比嘉 それともう一つ知っておいて欲しいこととして、コースタル・コミュニティ・ゾーン整備事業があります。これは昭和62年に町が当時の建設大臣の認可を得たもので、九州、沖縄県を含めてただ唯一北谷町だけ指定されています。この補助事業によって北谷町が安良波公園と北谷公園の整備を行い、沖縄県が北前の護岸整備事業を行いました。この事業のおかげで、一帯がゆるやかな傾斜と階段式護岸で整備され、また歩道は全てカラー舗装されています。なので今見ても、たいへん素晴らしい海岸になっていると思います、こういうこともぜひ知っておいて欲しい。

また、美浜公有水面埋立事業により埋め立てた地区は、昭和62年(1987年)の海邦国体のソフトボール女子の競技会場として予定されていましたが、2、3年前まで海はまだ触っていませんでした。その状況で県外から視察に来た方達からは「あんた方できるの?」と、現在の発展はイメージできないというような状況でしたよ。昭和61年にしか埋立て始めてないから。

辺土名 この地域は、「美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ構想」を基に整備しています。この事業は単なる役場と沖縄の経済界、大学の先生方で集まって進めたものじゃなくて、現にアメリカやオーストラリアへ視察に行き、国内外に絶えずアピールしながら、どのように町づくりをすれば北谷の良さが分かってくれるかなど。先進地を見て、あるいは古き良きアメリカをどう再現するか。当時、「アメリカンビレッジ」というのは不満の声もあり、「なぜアメリカにいいめられているのに」と新聞投書もされました。

当時は、領事館の職員も視察先の通訳や現場との交渉などで協力していただき新聞広告にも領事館の名前を貸してくれました。日本国内でアメリカの名前を使っている町はないから、米軍基地を上手く活かすような方向で用地処分ができればと。





比嘉 さっき話したように、バブル崩壊や議会による否決もあり、早期の用地処分の必要性なども経て、「美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ構想」の中で分割処分を打ち出しました。

辺土名 単なる受け渡しとせずに、この土地をどう活かして、町をどう活性化させるか。基礎をしっかりと自分たちのものにしたからこそできた仕事だと思う。

伊集進行役 現在の発展しか知らない人からすると、裏側のこんな大変なことを多くの方々には知らないと思います。その当時、1日に元本抜きで利息100万円ですよ。

比嘉 その時は議会も与党、野党問わず、当局に対して不信感みたいなものを持っていましたよ。提案しても全部否決されたり。金を返せないもんだから新計画が立てきれなくて。何度も企業訪問しましたよ。

神山 資料によると、90社で130回ぐらい企業訪問しましたね。

辺土名 これは役場業務と別でしたから。「ジーグワール コーミソレー(ぜひこの土地を買ってください)」と言って歩きまわりますが、企業からは「ヌースガ ウマコーティ(こんな土地を買って何ができる)」というような厳しい反応でした。なので専門のコンサルタントと一緒にやりましたよ。

こういった努力の甲斐あって、活力のあるまちづくり自治大臣表彰(産業経済部門)を頂くことができました。

神山 さっきの一括処分から分割処分に変えた話ですが、分割して処分するには、住宅がいいよ、という声がたくさんありました。議員の中からもありました。住宅で売って早めに借金地獄から離れなさいと。そこで首長は「絶対に駄目だ」と。「北谷町の経済の発展に寄与する土地だからここは譲れない」と。次に、土地処分にはテーマが無いとバラバラになるよねということで、アメリカンビレッジというテーマ、一つのコンセプトを設定しました。最初は200坪ぐらいで売ってくれという企業もありましたが、最低でも500坪以上じゃないと駄目だと。

野国 20数年前に(元中日ドラゴンズ監督)星野さんがキャンプ地を石川から北谷球場に移した際に言ったのは、「最初は本当に原っぱ、石ころの広っぱだった。ところが毎年キャンプに来る度に少しずつ変化してい

た。北谷の発展が一番よくわかります」と。

辺土名 北谷の場合には、役場庁舎を軍用地内に作ったというのに関心が生まれた一つの理由だと思えます。米軍基地の中に役場を作ってチャースガヤ(どうするの?)というようなことでしたからね。基地の解放を少しでも多くさせるために、あえて庁舎を国道奥へ寄せることにしました。

「住民福祉」と「教育」

野国 行政懇談会をやっていると、町民から「町は何で西側ばかり投資して、東側は疎かにするのか」とよく言われます。でも実際はそうではなく、西側からあがる税収でもって福祉や子育てといった住民福祉面をやっているんですよ。高齢者の肺炎球菌などのワクチンが無償化にしたり、給食費無償化や、中学生までの医療費を無償化したり。県が中学生まで無償化するようになったら、その財源を利用して高校生までの医療費を現物給付にしたり。また、赤ちゃんが生まれたら10万円の給付もしています。ただ、北谷町は土地が高いということで、なかなか一戸建てができません。賃貸の家賃も周辺より割高になっている。これだけ子育て支援をやっているも周辺市町村へ移ってしまいます。

まだ町域の52%は米軍基地なんです。キャンプ瑞慶覧が返ってくれば土地も少なくてくるなと思いますけど。

そういう中で、まちづくりをどうしていくか。先輩方からは「畑ないから頭耕せ」と言われ、



子どもたちの教育に力を入れていこうと。2006年の再編計画ではキャンプ桑江の海軍病院も返還されるとのことでしたが、なかなか返ってこない。そこで「知の拠点」として、外国大学を誘致しよう。そのためにメリーランド大学を視察しましたが、国防省から地位協定との関係を指摘され、大学側が引いてしまいました。当時の有識者会議の委員の一人である(元沖縄県副知事)富川さんが副知事になった後も「野国さん、絶対諦めないでよ。ハワイ大学だとか、あるいはベトナムとか、いろんなものが考えられるから」という話がありました。

記録しておきたい裏側

比嘉 私から一つ。北谷町には農業委員会がありません。

昭和48年当時は、農地が9万坪以上あれば作る必要があり、その時点では13万坪ありました。しかし、そのほとんどが軍用地内にある黙認耕作地で、許可が無いと入れない。上勢地域が返還されても4、5万坪にしかならないため、1人職員を置いて、村長が農業委員会の仕事をするので効率的な財政運営ができると考えました。農業委員会が全国でないのは北谷町だけ、それだけは特殊だから話しておこうかと思えます。

野国 僕からも一つ。ニライセンターは島懇事業(沖縄米軍基地所在市町村活性化特別事業・沖縄懇談会事業)で作ったもので、県内他市町村も島懇事業で色々やっていますが、成功しているのはこのニライセンターだと思えます。この施設を活用している町民がいっぱいいる、町内外からいっぱいきている。

それから「目取真家のうちな家」やこれから建築する博物館もしっかり活用していけば、文化の面もまだまだ注目される素晴らしいものがあると思います。

辺土名 島懇事業は、当時、箱物事業は良く思われず、なかなか進まなかった。当時の首相補佐官の岡本さんが中央公民館を視察し「これも含めたらどう?」と言われ、生涯学習支援センター「ちゃんニライセンター」が動き出したんですよ。当時の図書館、中央公民館とはけた違いに大きいものができています。落成セレモニーには岡本先生も呼んで講演してもらいました。

町民や北谷町に期待すること

辺土名 私としては、活力のあるまち、思いやりのあるまち、それを住民にしっかり分かっていただくのと、北谷の位置的に「結節の役目」を果たすような町づくりを目指す、先が見えてくるんじゃないかと思えます。そして、土地があれば北谷はもっと伸びると思えますので、軍用地の開放にももっと力を注ぐべきじゃないかなと思います。

野国 町づくりは「どうすれば町民のためになるか」という基本の部分を大切にすることや、町民の安全・安心を守るのが首長や役場の役目であります。先輩方が一所懸命取り組んできた歴史があって、そしてまた若い皆さん方の発想も取り入れながら、さらに発展する町を目指してほしいなと思っています。

また、子育て支援、高齢者福祉などのソフト面も引き続き全力を挙げて頂きたい。

私はインバウンドを取り入れるために台湾との交流を深めてきました。民間企業同士、商店街同士の交流もありますので、行政レベルでも交流を推進していただきたいと思えます。

比嘉 私からは、漁業組合の話少し。

フィッシャリーナの整備計画の際、長期起債を起こして、漁業組合から土地を町が買い上げました。その買い上げの条件として、①フィッシャリーナが整備埋立をする時には全面的に協力を、②港地域の道路用地を町に移管する、としました。これが辺土名町長の大きな成果だと思えます。このおかげでフィッシャリーナが順調に進んだんです。

神山 私からは軍用地の返還跡地について。

問題はたくさんありまして、現在は制度的



に認められている返還予定地の先行取得、そして磁気探査ですが、当時は制度が無く、何回も問題提起をしました。

文化財の発掘費用。これも大変な問題で、様々な組織を作りながら国・県・関係者一堂を集めて話をしました。

こちらが先に提案をして、国に認知してもらったんだと、私は内心自負しています。だから職員の方にも、そういった誇りを持ってもらいたい。戦略をもって、色々なチャレンジしてもらいたいです。

もう一つは、渡久地町長が話されている「戦後100年を見据えた平和で誇りある北谷町」ということです。誇りというのは大変なこと、どうして醸成されていくか。これは行政が様々な掘り起こしをして、それを共有するということ。「誇り」というものが生まれるんじゃないかと思っています。

あと一つは幹部の職員に伝えたいんですが、トップが決めて進めるというのは並大抵のことではありません。大変な決断力が要り

ます。比嘉元助役、源元副町長、辺土名元町長、野国前町長と、決断力というものはすごいものがありました。そういう胆力を幹部の皆さんも持つ必要があるんじゃないかなと思います。

そして一番大事なのは、町民と職員との情報の共有だと思います。町民に情報を伝える手段はたくさんあるようで、無い。私はコロナでこれを痛感しました。これからの課題として、進めていただければと思います。

町は動いていますので、次を見据えた戦略を立てながら、財政についても検討していただければと思います。

渡久地 皆さんからいただいた言葉、経験は必ず職員、議会、町民の皆さんに伝えるべきものだと思います。

しっかりと皆さんの言葉を活かしながら、5年後を見据えた大きなビジョンを持って、町政運営に励んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。

